内面塗装の作業性を確認する委員ら

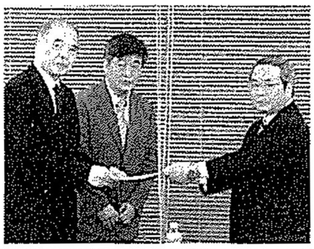
塗覆装を検討

月19日、東京・九段南の日本水道会館で第1回「水道鋼管実現する水道鋼管について検討した。10月6日には、滋賀認する実管試験も実施しており、同協会では今後、5回程る予定。

委員会を設置 年度内に報告

冒頭、WSPの野口芳男専務理事があいさつ。「本協会が16年前から実施している『水道用鋼管の外面塗覆装長期耐久性試験』により、水道用塗覆装鋼管の外面塗覆装に対して多くの知見が集まった。内面塗覆装に関しても現在、長寿命を実現する仕様を検討している。内外面の塗覆装一体で寿命100年を担保するため、今後活発な審議をお願いしたい」と話した。

委員長には、増子昇東京大学名誉教授が就任。委嘱書が協会から手渡され、増子委員長は「重要な任務。


増子名誉教授(左)に委嘱書を手渡す野口専務理事(右)

目指す。

内面の厚膜化 作業性を確認

日本水道鋼管協会は10月6日、滋賀県甲賀市にある多久製作所関西工場内で、「100年対応水道鋼管塗装試験見学会」を開いた。同工場では昨年12月から無溶剤形エポキシ樹脂塗料による現場内面塗装厚膜塗りの研究・試験が行われている。見学会は研究が最終段階にあることから、その成果と作業性の確認を行う目的で、管材メーカーなど20人を招き行われたもの。

同協会では厚生労働省から出された水道ビジョンの「100年耐用の管材の要望」に応えるべく平成21年から水道鋼管の長寿命化の

塗装の仕様の説明を受ける委員ら

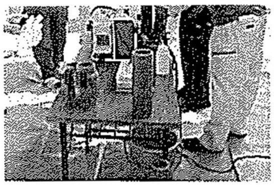
塗膜を厚くするのが最も効果が大きく、また外面は現状の1・5㍉㍍のプラスチック被覆で十分効果があることが分かった。そこで現状0・3㍉㍍の内面エポキシ樹脂塗装に目を向け、内面の厚膜化の検討を始めた。

内面塗装厚膜塗りの研究は北九州市戸畑と甲賀市（多久製作所）の2カ所で行われており、同製作所では、実際に鋼管を使っての試験を重ねてきた。

広く検討を行った。1年弱にわたる試行錯誤の結果、

展示や、くし型へらを使用した塗装の実演が行われた。

見学 ツアー実施


接合（上）とPE管のE
を前にして興味津々な
加者

の解説と信濃川浄水場の見学、水団連によるデモンストレーションが行われた。

日本ダクタイル鉄管協会は、GX形ダクタイル鋳鉄管の接合を実演。配水用ポリエチレンパイプシステム協会は、キャラバンカーを用いてPE管の性能試験や、融着接合の実演などを行った。米台からのツアー参加者は、最新の耐震技術に興味津々の様子だった。

午後は仙台市に移動、同市水道局から東日本大震災における水道施設の被害や復旧状況が説明された。

15日は南蒲生浄化センターを見学。参加者は、被害状況や具体的な復旧計画の

管カメ協臨時総会

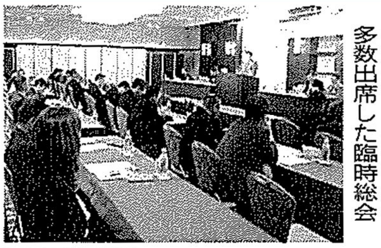
“耐震化でも出番” 多数の来賓が懇談

全国水道管内カメラ調査協会（杉戸大作会長）は10月25日、北九州市のステーションホテル小倉で会員ら約50人を集めて第6回臨時総会を開催し、事業・収支報告を行った。地元北九州市水道局からは吉川実給水部長が来賓として登壇、また、同局給水部津田数美東部工事事務所工務担当課長が「東日本大震災の救援活動と北九州市水道100周年について」と題して特別講演を行った。

冒頭、あいさつに立った杉戸会長は「不断水管内カメラ調査の意義が少しずつ知られるようになってきた。省エネなど地球環境や効率的な管路の管理・更新、地震に強い水道づくりで管カメの出番がやってきた」と述べ、翌日からの日本水道協会総会と水道展への展示参加による啓発活動の実施を強調した。会場には小泉明首都大学東京大学院教授、長岡裕東京都市大学教授、伊藤禎彦京都大学大学院教授ら学界のリーダーも出席、会員らと懇談した。

来賓の吉川部長は「内視鏡が医療を大きく変えたように管カメ協が水道管路のドクターとしての役割を果たされることを期待する」と語り、地元からの歓迎と同総会への祝意を表した。

講演会では北九州市水道局の津田課長が、東日本大震災の被災地域に向け給水車で片道1200㌔㍍を走破し展開した行方市、いわき市ほか、釜石市での支援活動について語るとともに、北九州市水道100周年の歩みと北部福岡連絡管事業、アジア諸国への技術支援の展開など、国の内外で先進的な活動を続ける北九州市水道について紹介した。


多数出席した臨時総会

吉川部長

ステンレス配管研 ニッケル協東京

SUS使用法を講義 事業体など91人参加

ステンレス配管研究会とニッケル協会東京事務所は10月7日、北九州市の福岡県工業技術センター機械電子研究所で「ステンレスの上手な使い方」をテーマにステンレスセミナーを開催した。水道事業体関係者および民間技術者など91人が参加した。ステンレス協会などが協賛。

冒頭、主催者を代表し、ニッケル協会東京事務所の大久保豊和所長があいさつ。続いて、「ステンレス鋼の機械的性質と組織」を日新製鋼技術研究所の広田龍二チームリーダーが、「ステンレス鋼の耐食性・基礎と使用上の要点」をステンレス配管研究会の遅沢浩一郎会長が、「プラントにおけるステンレス鋼の選び方、使い方」を早稲田大学の山本勝美客員研究員が、「ステンレス鋼の腐食事例と対策」を日鉄環境エンジニアリングの井上政春腐食防食専門士がそれぞれ講義した。

SUSの特性を学ぶ参加者

紫波町の施設を見

膜（第2版）」をテキストとし、浄水膜の基礎、制度と実用例を解説するもの。今回は、岩手県立大学の吉岡律司氏（矢巾町上下水道課）が特別講演。DBO案件の先駆けとして知られる紫波町の膜ろ過施設も見学する。

詳細は次の通り。

【日時】11月30日13～17時、12月1日10～12時

【会場】▽勤労福祉会

～13時半）▽水道用浄水膜の制度とAMST規格について（13時半～14時）▽水道用膜モジュールJWRC仕様について（14時～14時半）▽国内外における水道用浄水膜の実用例（14時半～15時半）▽特別講

ビル管理教育センター

建築物環境衛生管理技術者試験 合格者を発表

ビル管理教育センターは1日、第41回建築物環境衛生管理技術者試験の合格者を発表した。

試験は10月2日、全国6会場（札幌、仙台、東京、

協

貯水槽をランキング

ついては、「法的規制の中でできるだけシンプルな方

新潟市水道局

GX管施工で 旧管撤去

2011年11月10日：日本水道新聞